

認知症看護認定看護師 福島 恵美子さん わかりやすく解説

# 「知っておきたい認知症」

平成30年度  
総会記念  
講演会

平成30年3月5日(月)、当会の通常総会終了後午後3時から北見赤十字病院・大会議室(北館3階)で平成30年度総会記念講演会を開催しました。

『「知っておきたい認知症の知識」〜誰かのために 自分のため』と題し、講師は北見赤十字病院精神保健対策室・認知症看護認定看護師・福島恵美子さんです。

そのテーマ起こし生原稿を基に当方が要旨を編集。話し言葉を箇条書きにしたり、紙面の都合で内容を割愛した。不適切な記述が有ると思いますがご了承願います。(逢坂)

日本の認知症の患者さんは、2012年の時点で約462万人。65歳以上の約15%と推計されています。認知症の患者は増え続けており、2025年には約700万人になると推計され、まさに国民病とも言えるほど身近な病気です。

そこで北見赤十字病院の認知症看護認定看護師・福島恵美子さんを講師に『「知っておきたい認知症」〜誰かのために 自分のため』をテーマに講演をお願いしました。

ここで福島講師のプロフィールを簡単に紹介します。

▽平成2年・網走市立看護高等専修学校卒業後、八戸市立高等看護学院卒業

▽平成5年・北見赤十字病院に入社

▽平成17年・看護係長

▽平成25年・日本赤十字看護大学、認定看護師教育課程、認知症看護コース修了

▽平成26年・認知症看護認定看護師資格取得

▽平成29年・精神保健対策推進室に異動、5市町の認知症初期集中支援チームで活躍中です。それでは講師にバトン

今日は90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に



今日が90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

## 認知症とは

皆さんこんにち

は、認知症看護認定看護師の福島と申します。

今日は90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に

今日が90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に

今日が90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に

今日が90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に

今日が90人余りの人が聴講にいらしてくださりかなり圧を感じています。主催者から認知症のお話をして戴きたいと依頼があり、今日は短い時間ですが、広く浅く認知症のお話をいたします。

私、講演を依頼される機会が多く、数百人単位で話すことには慣れていますが、この狭い会場に

認知症は病名ではなく症状と言った方が適切と考えます。様々な原因で脳が病気になる、認知機能が低下し、それが原因で日常生活に支障をきたす状態です。認知機能が低下しても日常生活に支障が出ていなければ、それは認知症と診断されません。これはきちんとした国際的診断基準があります。

認知症は脳が委縮して起こります。この場所が委縮するから、認知症の症状が違ってきます。

## 認知症の症状

認知症の症状は大きく分けて2種類あります。簡単に言うと、脳の細胞が死んでしま

って認知症の症状が起こります。中核症状が現れます。

もう一つはそれに付随して起こる「行動・心理症状」とがあります。

■中核症状  
物忘れによる「記憶障害」、人や物や場所、時間の感覚が解らなくなる「見当識障害」、「理解判断力の障害」とか、「失認・失行」など

■行動・心理症状  
中核症状が基にな

ってその方の性格や健康状態、おかれて

いる環境や心理状態

が加わって出てくる

症状です。

不安や焦燥、いら

いらした感じ、幻覚、

妄想、徘徊など、認知

症で介護者が一番悩

まされてくるのが、この行動・心理症状になります。認知症という徘徊を連想しますが中核症状ではなく、行動・心理症状になります。

## 認知症のあるかたへの接し方

■接し方の基本  
▽自尊心を傷つけない。

▽子供扱いしない。

▽できるだけ楽しく、笑顔を忘れない。

▽間違ったことや失敗をしてもとがめない。

▽本人が出来ることは自分でやらう。

▽話しを聞くときは真剣に聞く。

■具体的な対応  
まず見守る。本人

や他の人に気づかれ

ないように、一定の

距離を保ち、さりへ

出方は人それぞれ、

そんなに心配をしな